

玉川上水自然観察日記

リー智子

3月23日、カタクリの開花を確認。3月29日には雪が降り、4月19日には雌しべのまだ残る小さな実を発見しました。ちょうど一月後の4月23日には見ての通り花には不釣り合いの大きな実に育っていました。その後、タネが飛んだ殻が残っているだろうと探しましたが、殻どころか大きな群落自体が、まるで溶けて消えてしまったかのようになくなっていました。メガネをかけ地面に這いつくばりよくよく探してみると、落ち葉に張り付いたオブラートのように薄く透けて見える物を見つけました。まさかこれがカタクリ？と、確信のないまま家に持ち帰り調べたところ、思った通りでした。もとは肉厚な葉っぱですが、それらに貯められた養分が、全て球根に吸い取られてしまうのだそうです。一つの花に注目して観察することは実に面白く、自ら新しいことに気がつくと、感激もひとしおです。



上：カタクリの実 下：カタクリの葉

署名活動+ミニ観察会

@小平中央公園南西入口(兎橋)

9月6日(日)、10月4日(日)、
11月3日(火祝)、12月6日(日)

・10:00-10:30 玉川上水保全署名

・10:30-12:00 頃 ミニ観察会

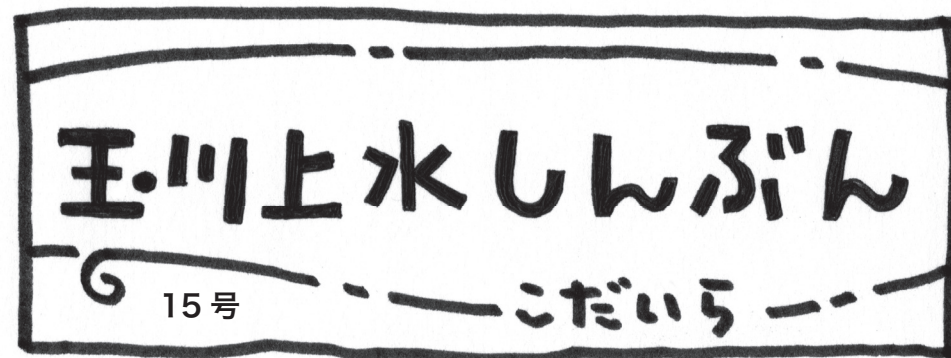
案内：大石征夫さん

問合せ：090-8341-9170(水口)

参加費カンパ(100円~)をお願いします。雨天中止。

*玉川上水しんぶんメール配信の申込みは以下へお願いいたします。

midoritsunagari@gmail.com



発行日：2020年8月2日

題字：石渡希和子

発行人：みどりのつながり市民会議 <https://midoritsunagari.wordpress.com/>

問合せ先：電話 042-341-3991 メール midoritsunagari@gmail.com

身近な水環境の調査に参加して

玉川上水と小平の用水路の水質の調査に参加しました。世界環境デー(今年は6月5日)に合わせ、全国約6,000ヶ所で水質調査が実施されるのだそうです。毎朝歩いている上水緑道を中心に、小平市内を自転車で巡る水質調査となりました。

私が参加したグループは8人。兎橋に集合して講習を受け、西と東の2コースに分かれて出発です。私達の東コースの4名は2ヶ所を調査してきました。東に行くに従い暗渠が増えます。暗渠と暗渠の間には用水の豊かな水の流れが見えます。喜平図書館から脇道を少し入ると回田水門緑道。街中にこんな自然が!と驚きます。Kさんからは上水の昔話。ちょっとした地域探訪ともなり、わが町小平の歴史と自然の豊かさを実感できました。

調査結果は玉川上水のCODが5ppm、多摩川の水が流れる新堀用水と小川用水は1~2ppm、田無用水と鈴木用水は2~3ppmでした。下水処理水が流れる玉川上水よりも、多摩川の自然水が流れる用水路の方がCODが低いことがわかりました。

午後は大雨になるとの予報でしたがどうにか降られず、ちょっと

日焼けもして無事終了しました。(昭)

COD(化学的酸素要求量、水の汚れの指標)と生き物

COD(ppm)	きれいさ	どんないきものが?
0~3	きれい	ヤマ、イナ、ア、ワカニ
3~6	やや汚れている	ア、コイ、ヒラタ、ロムシ、カニ
6以上	よごれている	ヒル、タニシ、アメリカザリガニ

JR 武蔵野線湧水が新堀用水路へ

小平監視所下流の玉川上水路及び野火止用水路には下水の高度処理水が流れていますが、その他の市内の用水路には今でも羽村で取水された多摩川の水が流れています。小平市内の用水路は今でも約50km残されています。しかし、水量不足でこれらの用水路の半分以上の水路は流れが途絶えています。JRと国分寺市などとの協議により、この市内の用水路へ、市の計画では来年度からJR武蔵野線(地下短絡トンネル)の湧水が流されることになりました。

武蔵野線のトンネルと湧水対策

1973年に武蔵野線が開通しましたが、国分寺市西恋ヶ窪3丁目の武蔵野線短絡線のトンネルが地下水脈を横切って設置されたことで、付近の地面に水が湧き出す被害がしばしば発生しました。JRはこの付近のトンネルに横穴をあけて水抜きパイプを設置し、湧水を公共下水へ流しました。さらに1991年、新小平駅の水没事故に伴



武蔵野線高架下の調整槽とポンプ小屋

い、トンネルの水抜きパイプを増設し、排水ポンプを設置しました。これに伴い、それまで年間1億数千万円だった下水道料金が4~5億円にも増加したといわれています。

姿見の池で余った湧水を小平へ

2000年頃、国分寺市ではトンネル近くの「姿見の池」付近の整備が進行していましたが、こちらは井戸を掘れども水不足に悩んでいました。一方、JRはかさむ下水道料金対策に悩み、両者が協定を結びました。JRの負担で湧水を地上へ送る設備を設置、2002年から「姿見の池」へ1日3000m³が流されています。

このトンネルの湧水量は季節により変動します。夏場を中心にピーク時は姿見の池へ最大限放流しても余裕があり、余った水は公共下水へ流されています。此度の小平市内への放流計画によると「姿見の池」へ流すのが基本で、余って下水に流す分が小平市へ送られ、武蔵野線と新堀用水が交差する地点の「玉川上水立坑」付近で新堀用水へ流す予定です。湧水量の少ない季節は姿見の池への水量も不足しているのが現状で、1日最大2700m³とありますが年間どの程度の放流が行われるかは流してみないとわからないようです。

これらの放流に伴う費用はJRの負担で行われます。小平市は当初ビオトープ公園のある「五日市街道立坑」からほぼ年間流水が停止している砂川用水へ流す要望書をJRへ提出しましたが、設備費用が多くかかるとのことで新堀用水への放流となったようです。(矢崎)

.....
2018年4月の第一回から、玉川上水ミニ観察会の講師を務めてくださった宮元伸也さんが、ご病気のため6月30日にご逝去されました。玉川上水の植物や昆虫を限りなく愛し、その知識を惜しみなく私たちに伝えて下さったことに深く感謝し、ご冥福をお祈りします。